

高等小學書方手本  
新制第三學年用上冊

K140.72  
1.1  
3上

K140.72

1.1

3上

文部省著作新制第三學年用上甲種

高等小學書方手本

發賣所

株式會社國定教科書共同販賣所

敷島のやまよこを人洞は

朝日にほふ山はくは花。

拜啓。一筆中。上中。一書。相呈仕中。  
春暖の節。炎暑の候。秋冷。酷寒。

是は。樺嫌。よく。近況。如何に。也。  
法無沙汰。法海。容々。れたく。中。

拜復。貴翰。招福。法。字。紙。招。見。任。也。  
仰の通り。兎角。不順。爲。暑。殊。暑。餘。寒。

一。日。無。事。消。光。惺。々。から。古。休。神。  
時。昔。柄。打。角。古。自。愛。勿。上。打。上。前。具。

史。吏。使。便。悅。祝。祝。

祝。祖。租。粗。精。請。情。

列。係。建。健。安。案。灰。

炭。成。盛。祭。察。發。廢。

歷史。官吏。小使。便利。喜悅。納稅。演說。  
祝日。祖先。地租。粗忽。精密。清負。事情。

列席。例會。建築。健康。安心。思索。石灰。  
堅炭。落成。盛大。祭禮。推察。出發。廢止。



金剛石も磨かずば玉の光はそはきらん。  
人も學びて後にこそまことの徳はあらはれ。

廿

新編  
三上

時計の針の隙間なくめぐるとかぬ時計の音の  
かけ惜みそはけみなほあるなまの業が減らん。

廿

水は器にしたがひてそのまゝ流くたなりぬなり。  
人は交る友にまよひたあしまたらるなり。

己に優るよき友をえらび求めてまらよまた  
心のままに鞭もて學の道にすあかし。

十。千。甲。乙。丙。丁。

大

戊。己。庚。辛。壬。癸。

十九

新舊四上  
卷三上

十二支子。丑。寅。卯。辰。

子

巳。午。未。申。酉。戌。亥。

子

新高字上  
新高字上

陽氣發處金石亦透。  
精神一到何事不成。

良藥苦口而利於病。  
忠言逆耳而利於行。

明晚六時由來車下されたく申。  
以厚意に任せ上乗上仕るべく申。

此品郷里より到來致ゆまは目にか付申。  
殊に此品頂戴侍り難有き存申。

来る十五日午前十時より小學校にて  
同級會を開き、西藤君に養護法を  
願ふ答に、ははは、縁會は来る會年及中。

當日は生憎差支あり、何れも都合  
つきかね、百餘念ながら缺席仕中。  
諸兄も然るべくは、得聲の程願ふ中。

去年今夜侍清涼。

元

秋思詩篇獨斷腸。

二十九

新  
高  
三  
子



恩賜御衣今在此。

三十一

捧持每日拜餘香。

三十二

人の一生は重荷を負うて遠き路を  
行くが如し。急ぐべからず。不自由を

常と思へば不足なし。心に望起らば  
困窮したる時をおもひ出すべし。

堪忍はきり長久の基。怒は敵と思へ。  
勝つことはかり知りて負くことを知らざれば

害その身にいたる。己を責めて人を責む  
るな。及ばざるは過ぎたるより勝れり。



